

本気の共闘、党躍進を

北海道党会議で決意

統一地方選、参院選を勝ち抜くため、市民と野党の「本気」の共闘を前進させよう、強く大きな党をつくらうと、日本共産党北海道委員会は16日、第62回北海道党会議を札幌市で開き、全道から駆けつけた代議員らが連続選挙をたたかう決意を固めました。

党会議には、「戦争させない市民の風・北海道」の川原茂雄共同代表（札幌学院大学教

授）、社民党道連の浅野隆雄幹事長、新社会党道本部の小柳政行書記長が来賓あいさつ、立憲民主党、国民民主党から連帯のメッセージが寄せられました。

川原氏は「市民と野党の共闘のたたいをさらに発展させ、安倍暴走政治を阻止しよう。共産党にはより大きな力を発揮して大躍進を果たしてほしい」と期待を寄せました。来賓3氏と青山慶二

委員長、畠山和也参院道選挙区候補が壇上に並び、代議員らの熱い声援にこたえました。

「連続選挙は安倍政権を倒す歴史的選挙で、政党の力関係を変え、道民が主人公の新しい政治を切り開くたたいだ」と青山委員長。道民が道政転換を強く求めている知事選について、「野党各党は統一候補でたたかうことで一致している。市民や団体、野党でしっかりと協議し、『本気の共闘』の姿が道民に広く伝わる努力が必要だ」



声援にこたえる来賓と青山（中央）、畠山氏（その左）16日、札幌市

と強調。「地方選も政党選挙の色合いが濃く、どの党の候補か

本共産党の評価は広がり、新しい時代を切り開くため、全力を尽くそう」と訴えました。

畠山氏は「地方選で躍進し、参院選挙区で自民の議席を許さず、なんとしても議席をかちとる」と力強く決意を表明しました。

真下紀子道議団長、村上仁札幌市議団長らが発言。北海道地震発生直後から被災者に寄り添い、要望を聞き、国や道に何度も要請を続けてきた吉岡弘子札幌市議候補（清田区）と伊藤富志夫厚真町議が「住民との新たなつながりができ、党議席の必要性を実感した」などと報告しました。